

Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press-release

① 8月23日：

ITUテレコムアメリカ2005ブラジルで開催
世界のICT関係者が注目する新市場
参加申込みは今すぐに
ITU TELECOM AMERICAS 2005 sets scene for Latin
American telecoms boom
Region's high growth potential attracts participants
from around the globe
Accredit Now

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2005/09.html)

ITUテレコム アメリカは、2005年10月3～6日、ブラジルのサルバドル・ダ・バヒア (Salvador da Bahia) で開催される。世界中から、民間企業や政府機関等のICT関係者が参集する本テレコムは、最新のICT機器展示と踏み込んだ議論を行うフォーラムで構成されている。このイベントは、アメリカ大陸において、最新ICTを見聞する最大の国際トレードショーであり、絶好のビジネス機会でもある。フランス、スペイン、米国などのパビリオンと共に、Cisco Systems、HP、Huawei、Intelsat、NEC、Nokia、Qualcomm、Telefónica、ZTEなどが出展参加する。アメリカ大陸では、多くの国で景気の回復が進んでおり、特にブラジル、チリ、メキシコでは投資環境の向上が見られる。また、メキシコ、チリ、アルゼンチン、ブラジル、カリブ地域でも経済が上向いており、ブロードバンドサービスやモバイルサービスへの需要が高まっている。

E-flash

② ITU-T e-Flash No.19 (8月24日)

(出典：<http://www.itu.int/ITU-T/e-flash/019-aug05.html>)

・ファイアウォール通過制御問題を解決
Firewall Traversal Problem Solved

ITU-TのSG16 (マルチメディア端末、システム及びアプリケーション) は、テレビ会議やVoIPの企業利用への普及の妨げとなっていた、H.323利用のシステムでの

NAT (ネットワーク・アドレス変換) あるいはファイアウォール (FW) 越え問題を解決する、勧告 (H.460.18とH.460.19) を完成させた。これまでは、FWで守られた環境下でVoIP呼を処理するには、FWに穴を開け外部からの呼をいつでも受け入れるようにするか、VoIP用のポート番号を新たに設け、実質的にFWを介さないようにするしかなかったが、これらの方法ではセキュリティ上、大きな問題があった。新勧告H.460.18は、H.323利用のシステムがNAT/FWの配下にあるネットワークに接続された場合でも、信号のやり取りや呼の設定を可能にするものである。また、新勧告H.460.19は、各信号メディアに対するNAT/FW越えの方法を規定するもので、これら2つの勧告により、H.323利用のシステムは、システム側には何の改修をも加えずに、NAT/FW環境下でも使えるようになる。H.460.18とH.460.19の機能をプロキシサーバに入れることで、従来のH.323システムや端末をそのまま使用することもできる。併せて、H.323マルチメディア・システムのNAT/FW通過のための要求事項と関連する問題に対する技術文書も作成した。

・ユーザーがネットワークを制御するCMIP
CMIP Offers Users Greater Control

CMIP (Customer Manageable IP Network) は、エンドユーザーに帯域や記憶容量などのネットワーク要素や資源を制御できるようにさせる技術で、例えば、1Mbpsをファイル共有に、0.5Mbpsをインスタント・メッセージや電子メールに、また0.5Mbpsをウェブブラウジングに割り振るといようなことを可能にするものである。NGNフォーカスグループ (FGNGN) は、グループの成果物として、CMIPの概略をまとめた技術報告書をまとめ、親グループであるSG13に報告することとした。これにより、サービスプロバイダーは、提供サービスの付加価値を高めることができるようになるとともに、ユーザーがウェブブラウジング、VoIP、及びピアツーピア (P2P) などのサービスにどのくらいの帯域を必要としているかが把握でき、的確にネットワーク資源を準備することが可能となる。

・JPEG会合ジュネーブで開催

JPEG Meeting Held in Geneva

ITU-Tは、7月18～22日にジュネーブで第36回JPEG会合を主催した。

Joint Picture Experts Group (JPEG) は、ITU-T Study Group 16とISO/IEC JTC1 SG 29によって設立されたもので、画像圧縮規格JPEGとJPEG-2000でよく知られている。

会合では、JPEGのJPSECアドホックグループにより進められているJPEG-2000におけるイメージセキュリティなど、前回2005年3月のリスボン会合で提起された技術の進捗についてサーベイした。また、会合では、JPEGのデジタルシネマ・アドホック・グループの活動とそのグループが開発しているJPEG-2000デジタルシネマ・アプリケーションの特徴について、検証した。JPEG-2000は、将来デジタル映画を映画館に配信する際の標準技術として、デジタルシネマ イニシアティブ (DCI) が、採用を決めている。JPEGは、今後、この技術を標準とするためにSociety of Motion Picture and Television Engineers (SMPTE) との関係性を強めている。また、JPEGとITU-T SG16専門家の存在意義を高める目的で、The Video and Image Coding and Applications (VICA) ワークショップが、2005年7月22～23日に開催された。ワークショップでは、現有の動画と画像圧縮技術の標準規格、その利用状況、及び今後の方向性が議論された。

・画像符号化の標準化技術に関するワークショップ

Workshop Reviews Video Coding Standards

本号、ITUホットライン欄で本ワークショップの報告記事 (VICA) が掲載されているので、翻訳は割愛する。

・IP伝送メディアに対するセキュリティを精査

Security for IP Media Reviewed

ITU-TのStudy Group 16は、VoIPやテレビ会議などのIPを使った通信のセキュリティに関する一連の標準10件をアップデートした。ITU-T勧告H.235シリーズは、伝送における認証承認と経路確認に必要なプロトコルを規定するもので、この勧告により様々なセキュリティの脅威から逃れることができる。リアルタイムのマルチメディア暗号化を使えば、一層セキュリティを高めることができる。H.235は、公開鍵インフラストラクチャ (PKI) 証明を用いることにより、より高いレベルのセキュリティを提供するもので、H.235.8 (H.323ネットワークにおける安全な実時間伝送プロトコル (secure real-

time transport protocol (SRTP)) を用いた鍵交換) と、H.235.9 (信号の完全性とプライバシーを保つために通信中のH.323の機器間にセキュリティゲートウェイを設ける) の2つの新しいセキュリティ規格も追加された。

・TV電話の呼設定時間短縮

Video Call Setup Shortened

ITU-Tは、3G携帯でTV電話を利用する際に問題となっていた、長い呼設定時間を短縮するため、勧告H.324の改訂に合意した。これにより、3G携帯の市場拡大が加速されると期待される。SG16によると、この改訂の内容は既に携帯電話機メーカーや多くの携帯電話オペレータによってテストされており、良い結果が得られているため、端末メーカーでは既にこの技術の導入を始めている。従来、TV電話呼を接続する場合には、双方が10のメッセージを交互に送り合い、各メッセージの受信を確認した後、次のメッセージを返信する手順をとっていた。メッセージが正常に受信できなかった場合には、返信メッセージを送ることができず、最悪の場合、再送する前にタイムアウトしてしまうこともあった。新方式は、すべての信号を一度に一括して送り、受信側で順次処理する方法とした。メッセージの受信に失敗した場合は、直ちに受信側から再送要求を出すようにしている。この改訂により、呼設定時間は大幅に短縮され、通常の電話呼の場合と同じ程度になる。また、この改訂では従来機との互換性を確保しており、オペレータ、製造業者、サービス等への影響はない。

・位置情報を提供する勧告案

Standard Gives Increased Location Information

H.323システム間での呼に、位置情報を提供するための勧告H.460.20が、Study Group 16会合で、コンセンタされた。この勧告により、VoIPやテレビ会議などのシステムでURL、eメール、郵便番号、又は携帯電話の番号等が使えるようになる。現在のH.323システムでは、呼がどこから発せられたものかという情報をエンド・エンドで伝えることはできないが、この発呼情報は、公衆電話交換網 (PSTN) 経由の緊急通報、正確な料金請求及び経路選定に必要とされている。H.460.20は、H.323に呼の設定、接続、切断を担うISUP (ISDN User Part) で使われているロケーション・ナンバーを提供するもので、この機能がなければ、IPネットワークとPSTNを接続することはできない。

Media Advisory

③ 9月15日：

WSISチュニスフェーズ、第3回準備会合（PrepCom-3）
2005年9月19～30日、スイス、ジュネーブで
参加申込み受付中

World Summit on the Information Society - Tunis
Phase Preparatory Committee 3（PrepCom-3）
19-30 September 2005, Geneva, Switzerland

Media Accreditation Now Open

（出典：http://www.itu.int/wsis/newsroom/press_release/wsis/2005/15sep.html）

WSISチュニスフェーズの最後の準備会合が、2005年9月19～30日に、ジュネーブの国連欧州本部（Palais de Nations）、ビルディングA、3階で開かれる。会合には、政府、国際機関、民間企業、市民社会、メディアから1,500名程度の参加が見込まれており、2005年11月16～18日にチュニスで開催予定のWSISでの成果文書草案作成を目指す。主要議題は、

- ・ インターネット・ガバナンス
- ・ フィナンシャル・メカニズム
- ・ WSISのフォローアップと実行

このうち、フィナンシャル・メカニズムについては、
フィナンシャル・メカニズム・タスク・フォースの検討

結果を受けて、ほぼ合意のめどが立っているが、インターネット・ガバナンスは継続審議となっている。インターネット創成期からかかわっている人の多くは、ネットは統治したり、管理したりすべきではないと考えているが、1990年代初めにWWWが発明され、だれでもがインターネットにアクセスできるようになり、ビジネスや行政上における重要性が増すにつれ、ネットはどうあるべきかという問題が提起されてきている。この難解な問題に対する世界的な合意を目指して、マルチステークホルダーによるインターネット・ガバナンス作業部会（WGIG）の最終報告（www.wgig.org）が2005年7月18日にまとめられ、PrepCom-3での議論に供されることとなっている。PrepCom-3では、将来のインターネット・ガバナンスについて重要な決定がなされる見込みであり、ジャーナリストの方々にも是非多数御参加いただきたい。PrepCom-3の議題、会合スケジュールは、www.itu.int/wsis/preparatory2/pc3/index.htmlから入手可能。

なお、9月19日にWSIS事務局から報道発表資料「合意を目指してPrepCom-3開催：PrepCom-3 Opens Amid Optimism」が発表されたが、本記事と趣旨同一内容なので、翻訳は割愛する。